

## 2019年3月期第1四半期 アナリスト向け決算説明会議事録

日時 平成30年8月2日木曜日 10:00～11:00

場所 ステーションコンファレンス東京 605

登壇者 執行役員 コーポレート・コミュニケーション部長 片岡 雅史

出席者数 67名

### ○質疑応答○

#### Q1.加工の売上動向および収益改善について

- ・数量の伸びは大きくないが、商品構成の見直しを進めており、主要ブランド中心に、安定的な利益の確保を目指していく。
- ・コスト改善については、「製造体制の平準化」「原価低減」「物流コスト抑制」を中心に、各施策を継続して進める。

#### Q2.貿易摩擦の影響および食肉相場の動向について

- ・追加関税発動による貿易摩擦の影響により、米国における食肉相場の動向が不透明であり、現時点の判断は難しい。
- ・国内鶏肉相場について、需給バランスが大きく変化したわけではないが、相場水準が高かった前年に比べれば低調な水準となっている。輸入鶏肉は、ブラジル産の入荷量減少等により、第1四半期途中から品薄に転じているが、市況そのものは落ち着きつつある。

#### Q3.豪州事業の見通しについて

- ・第1四半期は、生体調達コスト低減と販売価格の安定により計画を上回った。通期にかけては、集荷環境の悪化や穀物相場上昇によるフィードロットのコストアップ、米国牛肉相場の下落リスクもあり、状況は不透明。

#### Q4.関連企業（水産、乳製品）の見通しについて

- ・第1四半期は厳しい状況だったが、通期にかけて緩やかに改善していく見通し。
- ・水産を中心に商品構成の最適化を進めるとともに、チーズを含め価格改定を順次進めていく。

#### Q5.通期計画の見通しおよび「消去調整」の変動について

- ・現時点では、不透明な市況を踏まえ年間計画を据え置いているが、第2四半期にて状況をしっかり精査したい。
- ・「消去調整」には「球団損益」「IFRS適用による調整」などが含まれる。「IFRS適用による調整」では、四半期単位で大きな増減が発生するが、通期ではそのほとんどが調整される見込み。

以上